

全小・社研

・発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都新宿区四谷2-6
・発行人 石井正広
・編集人 西谷秀幸

群馬大会への期待

全国小学校社会科研究協議会会長
東京都新宿区立四谷小学校校長

石井正広



今年は戦後八十年です。この間、日本は、戦争の傷跡の乗り越え、経済成長を遂げ、平和な社会を築いてきました。終戦の翌年に発足した社会科の歴史は七十九年ですが、まさしく日本の社会を創ってきた教科の一つだと言えます。

現在、学習指導要領改訂に向けて、大臣諮問を受けて、文部科学省中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会において、様々な審議が続いています。前回改訂を鑑みると、令和

九年の改訂・告示になる見込みのようですが、これまで社会科が大切にしてきた「社会の進展に寄与する青少年の育成」「公民的資質の基礎の育成」という社会科の役割は変わらないと信じています。

さて、昨年度は、二つの研究大会が対面で行われました。

十月三十一日(木)・十一月一日(金)に第六十二回全国小学校社会科研究協議会研究大会島根大会が「地域に学び 未来を共に拓く生き方を問い続ける社会科学習」互いに関わりながら、主体的に考え、追究する力の育成を目指して」を大会主題に掲げて開催されました。

さらに、二月六日(木)・七日(金)には、令和六年度全国小学校社会科研究協議会研究大会和歌山大会が「持続可能な社会の在り

方を問い続ける子供の育成」一人一人が追求し、追求し合う社会科学習」を大会主題に掲げて開催されました。

コロナ禍の時期の研究会の様相とは全く異なり、従前の研究大会の形にもどっていることを実感しました。また、働き改革が進められる一方で、もっと社会科を学んでいきたいと考えている現場の先生方がたくさんいることも嬉しく思いました。

今年度の研究大会は、第六十三回全国小学校社会科研究協議会研究大会群馬大会の一回です。令和七年十一月十三日(木)に群馬会館にて第一日、十一月十四日(金)に、前橋市立桃井小学校と高崎市立塚沢小学校にて第二日が開催されます。

大会主題「よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習」思考力、判断力、表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実」の基に、①教材開発の工夫、②学習過程の構想、③評価の在り方と指導の工夫、といった三つの研究の視点から実践的な研究が進められています。研究大会を通して発信される研究成果が各地区の社会科教育の発展に寄与することを大いに期待しています。

十年後を見据えた社会科教育の進展に向けて

全国小学校社会科研究協議会副会長
東京都西東京市立東伏見小学校校長

中嶋太



を主眼とした研究主題です。

都小社研は、十年おきに全小社研の大会を開催してきました。次期大会は、令和十五年を予定しています。都小社研では、十年後の大会を見据えて、石井正広会長の下に研究活動の推進を進めています。特に大切なことは、中堅・若手教員の育成です。令和五年度東京大会の研究主題を引き継ぎつつも副主題等の立案については各学年部会に委ねることで、研究を創り上げる喜びを享受できるようにしています。また、令和六年度から、都小社研独自の研究員制度を立ち上げ、人材の育成に取り組んでいます。また、令和五年度の東京大会では、「オール東京」を目指し、都内各区市町村の社会科部と協働して研究活動を進めました。都小社研の夏季研究会等の充実を通じて、全都の教員との連携を更に進めていきます。

次期学習指導要領の改訂に向け、中央教育審議会等の部会で積極的な議論が進められています。十年、二十年先を見据えた、あるべき教育の姿について、わたしたちは関心を高め、情報を集めていかなければいけません。さて、令和五年度の全小社研東京大会では、大会主題「社会とつながり未来を創る子供の育成」の実現に向けて、研究提案をいたしました。また、令和六年度には、島根大会で「地域に学び、未来を共に拓く生き方を問い続ける社会科学習」を、和歌山大会で「持続可能な社会の在り方を問い続ける子供の育成」を、それぞれ大会主題として提案いたしました。いずれも、未来の社会を切り拓く子供の育成

未来の社会科教育の充実・発展に向けて、都小社研・全小社研の推進を図ります。

第六十三回全国小学校社会科研究協議会群馬大会

大会主題 『よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習』

～思考力、判断力、表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実～

群馬大会 実行委員長
群馬県前橋市立清里小学校校長 岩崎 琢郎

一 はじめに

この度、第六十三回全国小学校社会科研究協議会研究大会を群馬県にて開催することとなりました。本県では平成十三年以来の大会となります。県小社研では、それ以降も毎年度、公開授業をもとに成果と課題を話し合う「授業研究大会」、そして学年ごとに県内各地での実践を持ちより協議を行う「研究協議会」を実施し、実践にもとづいた研究を進めてきております。

そして、今回の大会にあたって私どもは、変化が激しく先を見通すことが難しい世の中にあつて、子どもたちには自分のよさや可能性を信じ、他人の持ち味を尊重し協働しながら豊かな

人生を切り拓き、よりよい社会を築いていってほしい、との願いをもち、以下に示します研究主題等を決定しました。

この研究の方向性は、群馬県教育委員会の方針である、子どもたちがエージェンシーを発揮する、『自律した学習者』への具現化を図るものとなっております。エージェンシーとは、人が生まれながら誰しももっている、自分と社会とをより良くしようとする意志を表します。

次期学習指導要領の方向性が示されるタイミングとも重なり、現行学習指導要領での実践がいれば「まとめ」にはいってくる時期での開催となります。

現在も授業公開校では、全体指導講師である文部科学省教科調査官・小倉勝登先生、会場校指導講師である大妻女子大・澤井陽介先生、群馬大・宮崎沙織先生、そして各指導主事の先生がたのご指導ご助言をいただきながら実践的な研究を進めてき

ております。

私ども群馬県小社研の研究が、今までの社会科学習を振り返るとともに今後の在り方を考える一助となれば幸いであり、『つる舞う形の群馬県』（上毛かるたより）にて全国の社会科学習の先生がたと語り合えることを楽しみにいたしております。

二 大会の概要

大会主題

よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習

～思考力、判断力、表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実～

・「よりよい社会」とは、持続可能かつ多くの人が生きやすく、より生活しやすい社会。

・「創造する」とは、社会の一員としての自覚をもち、自らが社会と関わりながら見いだした問題に対して、解決する方法を考え続けようとする。

研究内容

① 目指す児童像

○社会の問題を見だし、社会的事象の特色や意味を理解する児童

○自分の考えを基に複数の立場や意見をふまえて多角的に考える児童

○自分達の生活する社会に愛情をもち、よりよい社会をつくらうとする児童

② 研究の視点

「視点1」教材開発の工夫

・社会参画意識を育てるための教材の視点と組み合わせの工夫
学校や地域の特色を生かした教材、生活体験を生かした教材、社会の今日的な課題に対応した教材を組み合わせる単元設計

「視点2」学習過程の構想

・社会的事象と自分とをつなげる指導の工夫
単元末の見通しをもちながら学習を進めること、価値判断、意思決定をすることとを結び付けた指導

「視点3」評価の在り方と指導の工夫

・振り返りの充実
思考・判断・表現の視点との関連性を踏まえての評価規準の設定と振り返る場面の工夫

三 日時・会場・内容

第一日 令和七年十一月十三日

（木）

十三時～十六時五十分

群馬会館

群馬県前橋市大手町二丁目一一

（開会行事・全体会・大会主題

提案・指導講評・記念講演・開会行事）

第二日 令和七年十一月十四日

（金）

九時三十分～十六時二十分

第一会場 前橋市立桃井小学校

第二会場 高崎市立塚沢小学校

（公開授業・全体会・指導講評・学年別授業研究会・学年別課題研究会（紙上発表含む）

四 講師

第一日 全体会指導講評

文部科学省初等中等教育局教育課程調査官

小倉 勝登 先生

記念講演

「挑戦する勇氣

～背中を押してくれた大切な人の言葉～

落語家・ぐんま特使

林家つる子 様

第二日 学校別指導講評

第一会場

群馬大学准教授 宮崎 沙織 先生

第二会場

大妻女子大学教授 澤井 陽介 先生

五 参加申し込み

専用のウェブサイトからのお申し込みをお願いいたします。

<https://amarys-jtb.jp/syakaika63/>



群馬大会

第一日目

十一月十三日（木）

会場 群馬会館

午後一時より

○開会行事

○大会主題提案・指導講評

○記念講演

第二日目

十一月十四日（金）

市内二会場にて実施

第一会場

前橋市立桃井小学校
校長 板橋 均

■学校の概要・地域の特徴

本校は、学制発布を受け、明治五年に群馬県下最初の学校「厩橋学校」として開校しました。翌年、中心市街地に「桃井学校」が開校し、両校は明治23年に合併し、「厩橋」と「桃井」の冠を何度か交替しながら、明治

26年以降「桃井小学校」が定着しました。児童数の急増に伴い、昭和32年に桃井小学校から分かれた中央小学校が新設されました。その後60年が経過し、児童数の減少に伴い、平成28年、中央小学校と合併し、現在に至っています。教育目標を、本校に縁のある鈴木貫太郎氏の教訓『正直に腹を立てずに弛まず励め』を基盤に、「徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する」としています。

■研究の概要

群馬大会研究主題の「よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習」思考力、判断力、表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実」を受け、本校では研究目標を「社会的事象を自分事として捉え、問題解決の過程において自分なりの考えをもち、他者と交流しながら価値判断・意思決定を行う社会科学習を構想・実践する。」と設定し、以下の3つの視点に沿って、児童の社会参画意識を育てることを目指しています。

(二) 教材開発の工夫

児童が社会的事象を自分事として捉えるためには、どのような教材に、どのように出合わせるかが重要であると考えます。

(三) 学習過程の構想

社会的事象の見方・考え方を十分に働かせるために問題解決的な学習が必要であり、そのためには児童自身が問いを立て、調べ、考え、意見をもてる学習構成が重要であると考えます。

(三) 評価の在り方と指導の工夫

「社会的事象を自分事として捉えること」「問題解決の過程において自分なりの考えをもつこと」「価値判断・意思決定をすること」について、各単元の目標とする資質・能力との関わりを踏まえて評価し、指導に生かすことで、社会参画意識の育成につながるということが重要であると考えます。

第二会場

高崎市立塚沢小学校
校長 清水 さとみ

■学校の概要・地域の特徴

本校は、明治七年（一八七四年）以降の三つの小学校の設立と明治二十三年の統合を経て、「群馬県塚沢村尋常小学校」となり、以後、地域とともに歩みながら、百五十年以上にわたる長い歴史

を刻んできた学校です。

高崎市は、県内有数の商都であるとともに、ユネスコ「世界の記憶」に登録されている上野三碑、世界かんがい施設遺産に登録されている長野堰用水などがあり、社会科での学習との関連が図りやすい環境にあります。本校においても、市の特色を生かしながら、社会科を始めとし、各教科・領域において地域等と連携・協働しながら主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業改善を推進しています。

■研究の概要

研究主題、副主題を「よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習」思考力、判断力、表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実」とし、本研究を通して、児童が自分と社会とのつながりを考えることができる学びを実現し、これから自分たちができることを考えたり、未来に向けてよりよい社会を考えたりすることにより、児童の社会参画意識を育てていくことを目指しています。そこで、研究の視点を以下のようにし、研究を推進してきました。

(二) 教材開発の工夫

①地域を見つめ直し、関心や

愛着を育てる教材の工夫

②実社会の人と関わり、社会的事象の意味を実感的に捉える教材の工夫

③多様な視点や立場から意味を考える教材の工夫

(三) 学習過程の構想

①キーワードを活用し、見方・考え方を働かせる学習場面の工夫

②比較・分類したり、総合したり関連付けたりしながら意味を考え、表現する学習活動の工夫

③社会的事象の意味を考えたり、社会に見られる課題の解決や関わり方について説明し自分の事として考えたりする問いの設定

(三) 児童の学びを確かにする評価の工夫

①単元ポートフォリオを活用した、まとめと振り返りの工夫

②指導と評価の一体化を図るための単元ポートフォリオの活用

③振り返りを深めるための単元ポートフォリオの活用
の工夫

全小社研事務局だより

全国小学校社会科研究協議会事務局
東京都港区筈小学校 校長

矢部 洋一



令和七年六月六日（金）日本出版クラブで、第百十八回理事会が開催されました。

石井正広会長の挨拶の後、議事に入り、令和六年度の事業・決算が承認されました。その後、会長より令和七年度の役員が紹介され、同年度の事業計画・予算が承認されました。

引き続き、第六十三回群馬大会、第六十四回徳島大会、令和八年度京都大会の案内がありました。

令和十九年度の第七十五回研究大会には、四つの団体から希望がありました。

令和七年度 全国小学校社会科研究協議会役員名簿

会長 石井 正広（東京・新宿区立四谷小学校）
副会長 中嶋 太（東京・西東京市立東伏見小学校）
石川 篤司（北海道・札幌市立二条小学校）
中嶋 裕明（青森・青森市立金沢小学校）
野間 義晴（神奈川・横浜市立元石川小学校）
河本 隆明（石川・金沢市立三和小学校）
後藤 健之（名古屋・名古屋市中区立矢田小学校）
左海 克彦（大阪・大阪市立聖和小学校）
河野 隆（広島・広島市立山本小学校）
永井 武（徳島・徳島市立津田小学校）
今村 靖（鹿児島・鹿児島市立南方小学校）
伊藤 智樹（神奈川・横浜市立港北小学校）
風見由起夫（東京・練馬区立北町西小学校）
草刈あずさ（東京・府中市立府中第十小学校）
大須賀慎一（東京・江戸川区立松江小学校）
各地域団体組織代表者

理事 矢部 洋一（東京・港区立筈小学校）
事務局次長 吉川 正（東京・中野区立桃花小学校）
鈴木 優介（東京・西東京市立田無小学校）
手塚 成隆（東京・杉並区立荻窪小学校）
小林 資郷（東京・千代田区立谷戸第二小学校）
須藤 敏之（東京・西東京市立散田小学校）
島田 学（東京・八王子市立散田小学校）
西谷 秀幸（東京・板橋区立板橋第五小学校）

調査研究部長
会報部長

望がありました。別年度の研究大会や年度大会へ変更を含めて調整・決定し、群馬大会の理事会で報告することになりました。

理事会終了後は、文部科学省教科調査官小倉勝登先生による教育講演会が開催され、「これからの社会科教育の動向」をテーマに社会科の資質・能力の向上についてご指導いただきました。

研究論文の募集

全小社研では、毎年、研究論文を募集して、その成果を冊子にまとめ全国に紹介しております。今年度も文部科学省教科調査官小倉勝登先生を中心に論文審査をお願いし、優れた論文を研究収録第六十一集として三月に刊行する予定です。

一 研究主題

「学習指導要領の具現化を目指す社会科指導の工夫」

二 研究実践例

(一)「思考力」「判断力」「表現力」の育成を目指した研究実践
(二)児童に身近な教材を取り上げ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した研究実践
(三)一人一人の児童に生きる力としての問題解決能力の育成を目指した研究実践
(四)児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、課題を追究していく研究実践
(五)社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力の育成

成を目指した研究実践
(六)体験的な活動を適切に組み入れ、考えに広まりや深まりをもたせた研究実践
(七)学んだことを実社会・実生活等に活用し、社会参画を視野に入れた研究実践

三 応募要領

(一)論文枚数
A4縦置き 横書き 六枚
(二)締切
令和八年一月十四日（水）
必着（当日消印有効）
(三)応募資格
正会員である団体の長（都道府県小社研究会会長等）の推薦、又は準会員（個人会員）
(四)応募方法
官製はがき又はメールに次の事項を記入の上、令和七年十二月一日（月）までに事務局担当者にお申込み（応募登録）ください。
a 副主題 b 実践学年
c 実践単元 d 実践者職・氏名
e 勤務校
f 勤務校所在地、郵便番号
勤務校電話番号・FAX番号
g 「団体の長の推薦」又は「個人会員」の資格の明記
(五)発表
審査結果は、二月末までに本人宛に連絡し、入選、佳作は、研究論文収録に掲載します。
(六)問い合わせ先・応募先
〒一八八・〇〇〇一
東京都西東京市谷戸町一十七・二十七

会員募集

全小社研では、小学校社会科教育の発展のため、全国各地の研究団体（正会員）と個人会員（準会員）が連携して研究活動を続け、その成果を積み上げてきました。今年度も個人会員への加入にご協力ください。

一 個人会員の性格・特典
個人会員は、準会員として会費を負担することにより、研究論文への応募資格を得るとともに、全小社研の研究成果の刊行物（研究集録・資料等）の送付を受けることができます。

二 会費の納入方法
最寄りの郵便局より、郵便振替にて会費をご送金ください。入金が確認でき次第、会員証を送付いたします。

三 郵便振替口座番号
〇〇一〇〇一六二八二五五七
全国小学校社会科研究協議会

四 問い合わせ先
〒一八八・〇〇〇一
東京都西東京市田無町四一五・二
西東京市立田無小学校 校長
鈴木 優介
TEL 〇四二一四六四二二二
FAX 〇四二一四六四二二七

西東京市立谷戸第二小学校 校長 小林 資郷

TEL 〇四二一四二二一五〇五一
FAX 〇四二一四二二二四〇〇